

今後の重要問題

此の数年間幸ひにして移民問題... 第一に氣の付くことは、帝國...

政界往來

選挙期日の切迫に 政戦愈々酷は!

三月一日! 天下を取るか取られぬか、愈々最後決戦の日...

難關はあれど 各國代表の好意に待つ

開催中のロンドン軍縮會議

既報の如くロンドンに於ける五ヶ國海軍縮小會議は去る廿一日...

モダーン 禮儀作法(2)

加藤久美

二、近代散步法 自動車を買へないでね...

CASA TOZAN MIZUKAMI & CIA. COMMISSARIOS Rua Cidade de Toledo N. 25

散歩といふ以上、こんな散歩に限りません。尤も、この結婚は...

BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA, LTD. (THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.)

THEODOR WILLE & CIA. RUA LIBERO BARAO, 52

F. S. Hampshire & Companhia Ltd. S. PAULO: RUA ALVARES PENTEADO, 17 SOB.

### 北伯に於ける フオードと南拓

#### 聯邦外務省の發表

近時北伯、殊にアマゾン、パラー州に亘つて歐米諸國の資本家が進出する事は一概か非常に注目されてゐる事であるが、その内でも既に植民地としての設備を備へ、着々と事業を開始してゐるものに北米のフオード社と南米拓植會社の二社がある。

此等二社の事業經過に就いては、七日聯邦外務省の發表した報告書を見る。

#### フオード會社

パラー州タバコスの河流域にゴム栽培を開始したフオード會社は、ボア・ビスタに於て已に四百エーカーの區域にゴム樹の植付けを爲し、使用人住宅の建設、製材所ガソリン石油、その他重油類の貯蔵所等の完成をした。然して昨年十二月現在の使用人員總數は千八百名を數へ、これ等使用人に支給はれる十二ヶ月分の(今月迄)給料として二・三三七・〇〇〇トリスが計上されてゐる。向交通及び通信の懸案は右ボア・ビスタよりパラー市への道路開通と電話線の架設に依つて解決され、パラー市に本部を置いて、労働者の供給等總ての事務を司らうとてゐる。

#### 南米拓植會社

福原八郎氏を社長とする同社は、昨年一月から業務を開始してゐるが、已にアラカ地方にてトモ・アスと呼ばれる區域に事務所を開設、病院、工務所、製材所、倉庫、學校、墓地等の設備を備へ、道路の開通、それと併せて、同社内の住宅も出來上つてゐる。通信上の設備としては、二ヶ所に無線電信局を設け、病院外の各地に臨時救護所を設けて、これは既に同社使用人のみならず、一般地方人の

**Dr. Augusto Matuck**  
 診療所 R. J. Briccola, 2-Tel. 2-0445  
 住宅 R. Siqueira Campos, 32 Tel. 7-4637  
 S. PAULO

痔疾出血  
 静脈こぶ  
 無手術、痛みな  
 しの最新式治療  
 午後二時より  
 五時まで

洋艦とする意氣込みを以て設計したもので、各級の性能に於て日本の那智級に匹敵する優秀艦である。尙同艦の性能は次の通りである。五時噸數一萬噸、八時噸數一萬五千噸、飛行機發射機二機、魚雷發射機六機(二十一吋) 速力三十二節半、工費三千四百萬圓。

戦前の  
 獨逸同盟文書  
 一 公表さる

ウイナ電報に依ると、一九〇八年より一九一四年にわたるオーストリアの外交文書は全部八巻に編輯されて公表された。これによつて大戦前の獨逸同盟に對して英國も決してこれを防止せざるのみか、これを承認してをり、かつ獨逸もまたオーストリアとボスニアとの併合を承認してゐたのである。又外相ニレンタール氏はその覺書中に英國が獨逸同盟維持を考慮してゐたことが當然であり、右同盟が緊張を欠くことは英國とオーストリアのいづれにとつても不得策であつたと斷言して居る。

Z伯号南米に  
 飛來せん

昨年世界一週飛行を遂行して飛行界に劃期的大成功をおさめたツェッペリン伯號は今度南米訪問飛行の計畫を發表した。飛來の時期は今年五月頃なるべく、ブラジルの郊外カムボ・デ・イビランガ・ジキアが選定されるだらうと。

閃光ニュース

▼瘦せるために「断食」も厭せぬ  
 といふ美容探偵熱に燃えたメロの超美容の間に、この頃案を考へて居る料理師は、当然であり、右同盟が緊張を欠くことは英國とオーストリアのいづれにとつても不得策であつたと斷言して居る。

### ゲート後百年記念 科學研究所を 類例のない 設立する計畫

詩聖ゲーテ歿後百年が近づいてゐるが、ドイツでは早くもこの百年記念事業が計畫されてゐる。中でもゲーテの故郷フランクフルトには詩人、文學者としてののみならず、その世界文化に對する雄偉な貢獻を記念する事は出來ない。ゲーテがその不朽の大作にあらはしたフランクフルトの理想や精神が今に於ては如何なるべきかを明らかにする事が必要である。

又もや紛糾

さきに全米仲裁會議、國際聯盟等の調停に依つて解決されたポリア、パラグワイ間のシヤツ地方問題は、今度又再燃してゐるが、今度又再燃してゐるが、ポリアが同地方に軍事行動をとりつゝある事の不當を通告した。

求婦人。夫婚者でもよい。當方女子供世帯。妻は電話又は御問合せを。Rua Bella Curitiba, 142. Phone 4-0957

**Dr. T. WATANABE**  
 Rua Tolentino de Figueiras No. 139  
 Tel. 1757 - Santos  
 醫學士  
 渡邊 勳  
 サントス市 電話一七五七

**MARZENARIA DE NAOJRO TAMAKI**  
 業築建並賣販造製具家  
**場工具家置玉**  
 耶次直置玉  
 二一スロイネビ市ロウバサ場工  
 四一スロイネビ市ロウバサ宅住

**COLLEGIO CATHOLICO JAPONEZ**  
 SAO FRANCISCO XAVIER  
 Rua da Liberdade, 148 - S. Paulo  
 人法團社  
 園學コスシラフ聖  
 育教の想理の女子人邦  
 學通舍宿寄開機  
 九四一街デゲルベリ市聖  
**刀新木青** 任主

**Sarage Congresso**  
 貸自動車は同胞運動車の居る  
**カラー・ジ・コングレッツ**  
 電話二〇〇八〇・二〇〇六一  
 フラツサ・ジヨツメツデス

**HOTEL CARLTON**  
 Rua Libero Badaró 26-1.  
**ホテルカールトン**  
 は何故澤山の日本人方から御  
 最負に預つて居るのでせうか  
 市中目録の場所、日本領事館は左隣り四軒  
 目、使用人達の親切丁寧、かゆい所に手の届  
 く様な客扱い、室は市内と思はれぬ閑靜で、  
 しかも清潔、美味しいお食事、そして大廳  
 におもてなし  
 ◎御出聖の際は是非  
 ホテルカールトンへ

**Casa Uehara**  
 賣販貨雜及品料食  
 ◆建用舞者國◆  
**店商原上**  
 六十ロブンテツセ・デ・テツセ・ゴルヲ  
 四〇八一 話電 市ストンサ

取扱項目  
 ▲財政經濟事情  
 ▲金融事情調査  
 ▲右應芳需懇切調査報導  
**報導部**  
 侯野經濟

**S/A Cia Productos Nippo-Brasileira**  
 RUA DO COMERCIO N. 2  
 PINHEIROS - BUTANTAN - S. PAULO  
 TELEPHONE 4-2279

雜貨食料品各種農産物  
 諸機械農用藥品類馬  
 具類金物類各種肥料特  
 具類金物類各種肥料特  
 具類金物類各種肥料特  
 具類金物類各種肥料特  
 具類金物類各種肥料特

**Casa Gonçalves**  
 GABRIEL GONÇALVES & CIA.  
 (輸入商)  
 Rua General Carneiro, 35-53 e 55  
 SÃO PAULO

硫酸  
 硫酸溶液器  
 「アリスラド」  
 アイスクリー  
 機、建築用  
 鐵物 一切  
 陶物 一式  
 金物類 一式

**Cia. Santense de Navegação**  
 取日發ストンサ  
 復する客貨物船  
**イトイツーバ**  
 サンセバスチオン、ビ  
 ラペーラ、カラガッ  
 各火曜日午後十時  
 カナヤ、イグアペ行  
 各土曜日午後四時

**社會式株船商阪大**

早くて確實な  
 優秀の大型客船  
 【命令定期毎月一回】

●日本へ  
 三月十日 サントス發  
 ●日本より  
 二月十日 サントス着

ANTUNES DOS SANTOS & CIA.  
 S. Paulo - R. Barão de Ilpeitings, 39-41A  
 Santos - Rua do Comercio, 84

日本より  
 二月十日 サントス着  
 日本より  
 二月十日 サントス着

**S/A Cia Productos Nippo-Brasileira**  
 RUA DO COMERCIO N. 2  
 PINHEIROS - BUTANTAN - S. PAULO  
 TELEPHONE 4-2279

雜貨食料品各種農産物  
 諸機械農用藥品類馬  
 具類金物類各種肥料特  
 具類金物類各種肥料特  
 具類金物類各種肥料特  
 具類金物類各種肥料特

**Casa Gonçalves**  
 GABRIEL GONÇALVES & CIA.  
 (輸入商)  
 Rua General Carneiro, 35-53 e 55  
 SÃO PAULO

硫酸  
 硫酸溶液器  
 「アリスラド」  
 アイスクリー  
 機、建築用  
 鐵物 一切  
 陶物 一式  
 金物類 一式

**Cia. Santense de Navegação**  
 取日發ストンサ  
 復する客貨物船  
**イトイツーバ**  
 サンセバスチオン、ビ  
 ラペーラ、カラガッ  
 各火曜日午後十時  
 カナヤ、イグアペ行  
 各土曜日午後四時

作歌餘録

岩波菊治

或る科學者の豫想

(下) 中岸文鶴

自分が歌を作りはじめてから既に十数年になる。今、其の間に...

浦島太郎が歸つて五十六年たつた頃になつてから、世界の時計...

日本の山といふ山は臺灣から樺太までこの砲丸の發射砲で満ちて...

岩波菊次選 八洲男 昨夜の夜な夜な来るらし我庭の...

國は例の巨大の富を利用して、米國を太陽の方に向けて、地球の自轉を停止せんと努力して...

巷のおりおり 三 早く治つてちようだいな...

充たされぬ心 志津枝 遠くぬ淋しき強合なさが...

泣いてる小娘 選者吟 早く治つてちようだいな...

Dr. H. SAITO MEDICO Rua da Inconfidencia, 6-35 齊藤等

再度の値下断行 多年日本人農業者諸君から多大の御愛顧と好評を賜つて居る...

Cia. Brunswick do Brazil. Rua Ypiranga, 14-C, Tel. 4.6257. End. Teleg. "BRUNSWICK" - S. PAULO

ZERRENNER, BÜLOW & CIA. SECCAO TECHNICA. 製氷機、リンドール、H.M. G. 印重油モートル...



# 珈琲園經營資金

## 融通請願に就て

佐藤 次郎

不生産的資本の活用。前にも言ふ如く我々植民者の不生産的資金の活用なるものありと云ふ。吾人は敢て不生産的資本なりと稱する理由は此處に存するのである。自動車所有者の體験によれば二ヶ年以上使用する事は出来ない。例へば其以上耐久したとて修繕の費用多額に上る以上收支は益するものである。一臺の價格十コソトとして二ヶ年間に消費する資本にして再生産不能なるものは不生産的資本でなくてはならぬ。

(事業擴張として新地購入資金もあれども此資金については後日稿を改めて述べる事にしよう。此の問題には關れない事に何故なら既に既成樹を標準にしたからである。以上暴露したる現在の珈琲園を評價しても尙年収一萬三千コソトを著積されねばならぬ。管のものが其の足跡を絶つたは果して何處に行かざるべきであるか。それを述べる前に邦人植民者の經濟状態を正確に調べる事は勿論至難であるが、殊に今日の如く朝夕に於て其状態に異變を來す場合に於て其状態に在る吾人が大體に於ける数字を述べずしては至難事ではない。此處に總樹數の調査は別として前述の生産樹數の一千五百本、即ち既成樹に就いては既に記せし如く収入に比例せねばならぬ支出の方面も調べるべきである。即ち一萬三千コソトの行衛(一七千コソトの行衛)最近に於ける我々邦人植民者の所有にかゝるカミオン及自動車トモビルの數は一体どの位であらうか。判然せる数字は不明なれども約七百臺前後であると推算してよいと思ふ。果して七百臺の自動車(乗客)邦人植民者の所有である以上平均價格十コソト(一臺當り)總額七千コソトの行衛は即ち此處より算する事が出来る。右七千コソトは固定資本であつて不生産的資本ではないと稱する人々

を如何にして運搬するやと問はる人もあらふが「吾人は是に答ふるに左をもつてする事が出来る。植民地に自動車は絕對的必要なる事はあるが植民者が之を所有する事は不生産的であると言ふのであり農産物の運搬は生産者の果すべき仕事ではない。運搬業者の事業に歸して始めて生産の發達を期待するを得る」と云ふのである。此處に運搬業者に一任せし場合の收支は次の如くである。十高本に一臺當り五百コソトの自動車に所有するに充分である。年収皮付依數七十五萬である。假令一依二ミル五五レイス平均の運賃を支拂ふとせば一千八百七十五コソトと云ふのである。吾人の虚榮心は強いて一萬コソトを運用しつゝあるのである。況んや植民地内に製糖工場を設立するに於ては、三分の一に減費する事は、今更言ふまでもない。

(一)三千六百コソトの行衛は利率の算出は斯うである。一萬五千コソトの既成樹園に對する負債額は一株當り二ミル平均と見做すに誤謬なきと思ふ。上記平均利率を以て總算すれば三萬コソトの負債總額となる。プラジルに於ける珈琲園經營資金は年利一割二分が標準利率なるに邦人は何れも標準利率の融資に於ける機關を有せず。隨前年利一割四分の高利を以て甘んじねばならぬのである。斯の如き利率は既に利潤を奪つて脱窮出來得るであらうか、左に記して見れば

一萬株を標準とし生産率二十株(一依當り)皮付五百依精選品百八十七依半の生産がノロエスタ線邦人の平均生産率なのである。故に二百二十コソトの百七五レイスが一萬株より生産されつゝある収入金額である。右収入額に對する支出額は左の如くである。

だしいと言はざるを得ない。過去年は幸ひにして珈琲園經營者には尙ほ僅かに年々純益金六コソト有餘を蓄積出來得るのであり、時勢に此の寛大を與へざるを得ば尙ほ直ちに窮乏を脱し得るのである。

(窮乏挽回策に關する) 利率對照表(略)

今や我々の理解を得て金融の完備を得るに依つて容易なる解決を見るのである。吾人植民者は何を好んで多數の日月と多額の汗費を犠牲にしつゝあるか。金融に途なく販賣に暴利を貪られつゝある吾人の窮乏を救ふ此處に盡きて行く可き途を知らざる所である。

既述の如く我々ノロエスタ線邦人植民者の經濟現狀は債務總額三萬コソトを負つたものであるが、「既成樹のみに關する費用」其の資財に於ても亦巨額を算する事が出来るのである。即ち年収一萬六千コソトを生産しつゝある年収益金六千コソトの利潤として算用すれば百コソトの資金の利潤であり、年利八分とすれば七十五コソト、尙年利一割二分と見做すにすれば二十五コソトの資金に對する利潤となるのである。故に面積十アルケレス樹數一萬餘の既成樹を有するシヤンテは資財に於て平均即ち五十コソトの所有者となるのである。更に總樹數に換算すれば七五コソトが我々ノロエスタ線邦人植民者の現在所得せる資財額なのである。

以上詳述せし一切は偽らざる我々ノロエスタ線邦人植民者の現在に於ける經濟状態の真相なのである。

要は現在の珈琲園經營の根本組織を改良改善して運搬上の業務一切を運搬業者の手に委ねシヤンテは純獲として金を取つて止まらず生産の向上を計りて他を省みずして資金と利息の融合及生産物販賣の方法を劃策するにあらざれば邦人植民者は立ち處に窮乏を免れざるのである。

吾々植民者はパツタジイロ植民ではない、氣分は逸れぬであらうが自然にそれを許さぬ。隨而アラシテシヤンテ、プラジレロたる資格を築き上げねばならぬ。

第一世は經濟的基礎を固め二

精製費 三ミル二五レイスの割  
空袋代 四六八〇〇の割  
二ミル五五レイスの割  
鐵道運賃 四六八七五〇〇の割  
二五五ミルの割(リンスより)  
金 一六三三〇五〇〇  
差引純益金 一六三三〇五〇〇  
計 一六三三〇五〇〇

其他に事業擴張費として多額の支出を出しつゝあるに至つては經濟の本義を無視せるも甚だしいと言はざるを得ない。過去年は幸ひにして珈琲園經營者には尙ほ僅かに年々純益金六コソト有餘を蓄積出來得るのであり、時勢に此の寛大を與へざるを得ば尙ほ直ちに窮乏を脱し得るのである。

### CASA CRYSTAL

ALMEIDA BARROS & FILHO  
Rua Olovo Bilac, 24 LINS

各種金物、一式、ガラス、瀝、戸物類、箱、具

望おをのもい善てくすやへ店當は方のみ

### Fernando Hakratt Cia.

Rua de S. Bento, 23, 2 and. sala 7  
CAIXA, 948 - S. PAULO

#### 肥料

作物に肥料は一番大切です。弊店の肥料は獨逸式で芋、綿、野菜、珈琲、ミロ等夫々別々の肥料を差上げます。品物は極上有効、日本人諸君には特に御便利を計ります

トラクッハ、ドンナルエフ 會商  
番三十二トペンサアル市聖  
八四九兩一室號上階三

### F. Ambrosio & Cia.

Rua José Bonifacio, 39  
Phone 2-1298 - Caixa, 752  
SÃO PAULO

化學肥料販賣

硫酸アンモニア、智利硝石過燐酸石灰、硫酸加里、石灰燐素、骨粉、硫酸、殺菌、劑、肥料、(ベタ、野菜其他) 地質試驗、フオルミシダ、ベンゾク、レオル類、フオルツナ肥料製造

委託販賣業

倉庫 ビネイロ、メルカド際  
自宅 ビネイロ、メルカド際  
モラエス、六五

### Adubos Fortuna

RUA LIBERO BADARÓ NO. 455  
S. Paulo

化學肥料販賣

硫酸アンモニア、智利硝石過燐酸石灰、硫酸加里、石灰燐素、骨粉、硫酸、殺菌、劑、肥料、(ベタ、野菜其他) 地質試驗、フオルミシダ、ベンゾク、レオル類、フオルツナ肥料製造

委託販賣業

倉庫 ビネイロ、メルカド際  
自宅 ビネイロ、メルカド際  
モラエス、六五

### CASA CATTINI

R. General Carneiro. 11  
TEL. 2-4274 S. PAULO

#### 洋服!

カジミール及びプリン洋服仕立並に股方、御婦人、御子供さん方の出来合せ、外装、雨合羽、御婦人方のコート類は特別仕立

子供服各種其他與服反物類の御用命は特別廉價な當店へ

### COFRES, ARCHIVOS E PRENSAS "BERNARDINI"

#### Ugo Bernardini

金庫 文庫 金庫 文庫 金庫 文庫

類デプ文金  
一スレ  
切クス庫庫

に間社會大行銀るな要主國當  
すまり居てし博を評好  
達用御社會業興外海

Fabrica Rua Oriente, 187 e 189  
Deposito Rua da Quitanda, 16  
Telephone 2-1414  
São Paulo

### DUARTE & SALERNO

RUA S. BENTO, 19  
SÃO PAULO  
Caixa Postal, 2182  
Telephone 2-6318

#### 寫眞機

並に附屬品、材料一切は最も信用ある當店の直輸入品に限りませす

「アグファ」  
「インペリアル」印乾板  
「フラジール」  
コダック會社代理店

ドアルテ・サレルノ商會

現像修正並引延し  
型録申込次第進呈

連載大 名盜みの血

長谷川伸

(一)

無邊流の槍術者、鶴沼無角は手慣れた槍術を肩に擔いで、遺跡を出て来た。...

御鶴 料理家 三三四



梅毒妙薬

「では、なぜ、久彌に挑戦した。貴公は眞槍試合で久彌を殺すか傷つけたか。...

「はい、久彌は美男でござりますが、...

人員募集 製材、炭焼、雑役、...

御料理 ばそんごう 致強勉と精しと旨を清潔、修改内店...

Dr. K. DAIAN MEDICO Araçatuba 八喜庵大

大野鶴龜醸造所 並に上等味 油醬等上

FABRICA DE MACARRÃO JAPONÊZ SHIROMA & IRMÃO Av. 13 de Maio, 67 LINS

M. HARADA ENGENHEIRO 建築設計 測量 土地測量...

成功館 古諺 將義 電話二〇〇八

HOTEL PAZ 電話二〇〇八

御旅館 サンパウロ

東洋旅館 梅田金次郎

播種機 農具一式

村上商店

北パラナ珈琲地帯

伊勢屋

御旅館並御料理

新らしい店で買よい店 母國食料品 小間物...

羽瀨商店

義主賣多利薄的仕奉

石井洋服店

日の出醬油

中矢商店

日本品 直輸入商



# NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonês de maior circulação no Brasil

Anno XVI

São Paulo — Quinta-feira, 30 de Janeiro de 1930

Num. 661

Novo processo de renovação do chá foi descoberto em Yamato

O MINISTERIO DA AGRICULTURA E FLORESTA PLEITEIA A REDUÇÃO NOS FRETES SOBRE ADUBOS

Decresce de 18.000.000 yens a receita das estradas de ferro officiaes no anno de 1930

Foi extinto em Nagasaki o regimen de subsidios aos intendentes municipaes

POR 102 KILOMETROS A' HORA, UM TREM EXPRESSO ENTRE TOKIO E OSAKA ESTABELECE NO VORECORDE DE VELOCIDADE

Foi pacificamente resolvida a desintelligencia entre a Prefeitura de Tokio e os empregados da tramway

## MATHEMATIZANDO AS INDUSTRIAS

### Renovação do chá por meio de corrente

TOKIO, Dezembro de 1929 — Era a crença dos plantadores de chá de que só se obteria chá de qualidade excellente quando o pé é centenário. Mais tarde, porém, os estudos scientificos sobre a cultura do chá iniciados pela Estação Experimental da Provincia de Nara levaram ao cabo esta crença que não passava de uma superstição, deixando patente que a differença entre os dois tipos de chá — colhido de uma arvore centenaria e de um arbusto novo — se pode desaparecer por meio de adubação racional, processo que, entretanto, não deu resultado que se esperava, e, por consequente, era enorme a queixa dos plantadores de que a adubação era sufficientemente compensada. Agora, porém, este obstaculo está deslocado. A Estação acaba de obter um resultado satisfatorio pelo novo processo: renovação do chá por meio de corte. O novo processo é, ao que ficou patente nas experiencias effectuadas pela Estação, bastante eficiente para rejuvenecer os pés cansados. É uma especie de podadura que ahi se emprega nos cafeeiros.

### A redução nos fretes sobre adubos como um passo para o barateamento da lavoura

TOKIO, Dezembro de 1929 — No intuito de dar um passo eficiente para o barateamento da lavoura, tão reclamada desde alguns annos a esta parte, o ministerio da Agricultura e Floresta acaba de solicitar do seu congere das Estradas de Ferro, a redução de 10% sobre os fretes cobrados nos transportes de adubos, nas estradas de ferro.

### Orçamento de receita para o ministerio das Estradas de Ferro

TOKIO, Dezembro de 1929 — Tendo sido approved na reunião do ministerio das Estradas de Ferro realizado em 7 do corrente mez, no gabinete do ministro, vae ser brevemente entregue á

Louças, Artigos Japonezes e Nacionaes

**K. NISHITANI**

IMPORTADOR E EXPORTADOR

Rua Conceição, 88  
End. Teleg. NISHITANI  
Caixa do Correio, 1134  
RIO DE JANEIRO

comissão de Estradas de Ferro, da Camara Baixa, pelo respectivo director geral de contabilidade, sr. Goto, o projecto orçamentario de receita daquelle ministerio. Segundo o mesmo, será de . . . 533.000.000 yens a receita total das estradas officiaes, accusando portanto, uma redução de . . . 18.000.000 yens em relação ao deste periodo fiscal. Essa redução resulta principalmente da redução nos fretes de mercadorias a entrar em vigor em janeiro proximo, mas também a comissão previu boa diminuição no movimento de transporte de mercadorias, tendo em vista a crise commercial e industrial pelo que atravessamos.

E, em consequencia, o ministerio pretende economisar, no proximo exercicio, se o congresso assim approvar, 5.000.000 yens nas despesas ordinarias, 34.000.000 yens nas destinadas a melhoramentos e varias sommas consideraveis nas outras despesas. É um facto curioso notar que o ministerio pleiteia o augmento de 5.000.000 yens nas subvenções concedidas ás estradas particulares. Assim, as estradas particulares vão ser sub-

Dr. Tetsuji Kikuchi

MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

O governo japonês vae adoptar um orgam executivo de fomento industrial te, o resultado do inquerito e as medidas que a seu ver se fazem mister, segundo as quaes, o governo adoptaria um orgam não somente consultivo como também executivo para fomentar as industrias mathematizadas. Não sabemos ainda a que departamento pertencerá esse orgam que, ao que apuramos, vae ser criado dentro de poucos dias, afim de atacar o seu objectivo desde o inicio do anno vindouro.

vencionadas com 7.500.000 yens no proximo exercicio financeiro.

### A extinção do regimen de subsidios aos intendentes municipaes de Nagasaki

TOKIO, Dezembro de 1929 — Não faz muito tempo que os intendentes municipaes de Nagasaki filiados ao partido "Minsei" propuzeram á camara a redução de 50% dos subsidios pagos aos intendentes, projecto que, sob o fundamento de ser pouco airoso, não foi approved, devido á opposição feita pelos intendentes de outras facções politicas. Agora, não a redução, mas a completa extinção do regimen de subsidios foi proposta pelos intendentes filiados ao partido "Seiyukai" que forma a maioria naquella edilidade. Não obstante opposições feitas pela minoria, justificando-as de que a extinção completa dos subsidios viria ameaçar a vida dos intendentes ou, dificultaria, no minimo, uma acção ampla dos mesmos, os quaes ficariam obrigados a procurar outros meios de vida, o projecto foi approved por maioria de votos.

### Novo recorde de velocidade de trem

TOKIO, Dezembro de 1929 — Na prova de velocidade effectuada ha dias entre esta capital e Osaka, por um trem expresso conduzido por uma locomotiva ultramoderna, ficou estabelecido novo recorde no genero, por 102 kilometros a hora, alcançada no

trecho Kayagasaki-Hiruzuka, na linha Tokaido. Esse trem trilhou um percurso de 760 milhas, gastando 16 horas e 15 minutos.

### Ainda a desintelligencia entre a Prefeitura de Tokio e os empregados da Tramway

TOKIO, Dezembro de 1929 — Tendo a comissão encarregado de entender com a Prefeitura sobre a desintelligencia ultimamente verificada entre ella e os empregados nos serviços da tramway municipal, acceito a proposta conciliatoria enviada pela nossa Prefeitura, em 6 do corrente mez, ficou o caso pacificamente resolvido, o que era o desejo geral da população, que necessita a todo instante dos serviços desses funcionarios. São as seguintes as clausulas de conciliação:

1. Redução de 10% sobre as gratificação;
2. Até 31 de março de 1930 nenhum empregado da tramway terá o seu ordenado augmentado;
3. A municipalidade não despachará nenhum empregado da tramway, bem assim a reintegração dos dez empregados demittidos;
4. Será pago o ordenado correspondente a um dia, do tempo que estiveram parados, em vertude da desintelligencia ora resolvida.

**DR. S. TAKAOKA**

MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8  
Tel. 7-4683

S. PAULO

## Edição de 8 paginas

### NIPPAK SHIMBUN

Propriedade e direcção de:

**SACK MIURA**

Redactor:

**Jorge T. Midorikawa**

Redacção, Administração e Officinas  
Rua da Liberdade, 146  
Caixa Postal, 375  
Telephone, 2-3926  
Endereço Telegraphico "NIPPAK"  
SÃO PAULO — BRASIL

ASSIGNATURAS

Para o Brasil:

Por anno . . . . . 30\$000

Por semestre . . . . . 16\$000

Numero avulso . . . . . \$500

Para o Exterior:

Por anno . . . . . 60\$000

ANNUNCIOS

Temos á disposição dos interessados uma labela completa de preços para annuncios nesta folha. Telephone 2-3926

## ASSUMPTOS AGRICOLAS

### A CAMPANHA DO FUMO

Communicado da Directoria de Publicidade da Secretaria da Agricultura:

"A imprensa desta capital já publicou innumerous communicados fornecidos por esta Directoria, sobre a campanha da racionalização da cultura do fumo em São Paulo. Mas essa é uma das questões sobre as quaes jamais se torna exhaustiva a publicidade, porque envolve um problema economico para cuja solução não é necessario mais do que um pouco de boa vontade e uma propaganda bem orientada.

Para supprimir a volumosa importação de fumo em folhas, que pesa annualmente em seu movimento de exportação com meia centena de milhares de contos, e para se tornar, até mesmo, exportador de fumo para cigarros, São Paulo não se verá na necessida-

de de revolucionar o systema agricola aqui em uso, nem precisará promover custosas installações. Basta que os lavradores adquiram um pouco de pratica e semeiem a boa semente.

E a prova disso nos forneceu o anno de 1929, que se encerrou com uma victoria da actual campanha em prol do fumo paulista.

De facto, com fumos colhidos no Estado e trabalhados sob a direcção do Serviço Technico de Fumo, da Directoria de Inspeção e Fomento Agricolas, da Secretaria da Agricultura, foram fabricados 200 mil cigarros, que, distribuidos por occasião da 1.ª Exposição de Trigo Paulista, agradaram geralmente. Acharam-nos apenas um pouco fortes, o que se explica pela falta de estacionamento do fumo depois de enfiado. Entretanto, foram todos unanimemente reconhecidos o seu agradabilissimo aroma.

A safra total de fumo em folhas em São Paulo, no anno findo, foi de 8.475 kilos. No anno de 1928 e nos anteriores, não havia produção de fumo em folhas neste Estado. Os resultados da campanha foram, portanto, bastante animadores, e constituem uma promessa de desenvolvimento dessa cultura entre nós. (Continúa)

**I. SHIOKAWA**

UNICO IMPORTADOR DA PORCELLANA

MARCA

*Noritake*

SÃO PAULO  
R. Brigadeiro Tobias, 96 e 96-B

TELEPHONE 4-6387

CAIXA POSTAL 1774

End. Tel. "ELNIPPON"

## JAPONEZES

NO JAPÃO — NO BRASIL

Prof. BRUNO LOBO

25

### A IMMIGRAÇÃO JAPONESA

(Continuação)

Nós brasileiros, por gratidão filial para com os nossos antepassados da raça preta, e por fraternidade para com os nossos concidadãos da raça preta, bem como para expiar o crime occidental dos nossos antepassados, presumidos brancos, e por dedicação á nossa posteridade, tenhamos o dever iniludível de acolher esses novos martyres pretos, de offerecer-lhes o nosso cordial agasalho.

Semelhança projecto não podia sequer ter sido acceito pelo Presidente da Camara dos Deputados; nem essa Camara poderia ter julgado objecto de deliberação tal monstruosidade; porque se trata de um projecto deshumano, e tudo que é deshumano constitue um ataque directo ao regimen republicano, e é, portanto, inconstitucional, na Republica fundada por Benjamin Constant, segundo as tradições da Revolução Franceza.

Lembrai-vos da sessão da Convenção, a 16 de Pluvioso do anno II (4 de Fevereiro de 1794), e que foi abolida a escravidão nas colonias francezas. Essa sessão acha-se reproduzida nas publicações n. 200 e n. 280 A, da Igreja Positiva do Brasil, e que recebereis com esta carta.

(Lacroix (d' Eure-et-Soir). — Trabalhando na constituição do povo francez, não tinhamos lançado os nossos olhares sobre os desgraçados negros. A posteridade terá uma grande censura a fazer-nos por esse lado. Reparemos essa culpa . . . Proclamemos a liberdade dos negros . . . Presidente, não consintas que a Convenção se deshonre por uma discussão.

(( A assembléa levanta-se por aclamação. ))

(( presidente pronuncia a abolição da escravidão em meio dos applausos e dos gritos mil vezes repetidos de: Viva a Republica! Viva a Convenção! Viva a Montanha! ))

E, na Republica Brasileira, — quasi um seculo depois que José Bonifacio, o velho patriarca da Independencia, proclamou, no seu projecto da abolição da escravidão, o principio: a sã politica é filha moral e da razão; cerca de uma geração depois que uma assembléa imperialista, eivada de sentimentos escravocratas, declarou extincta a escravidão do Brasil, cerca de uma geração depois que Benjamin Constant fundou a Republica, segundo as tradições da fraternidade universal, inauguradas pela Revolução Franceza, ha uma camara de deputados que acceita como objecto de deliberação um projecto, que é o mais monstruoso ataque á fraternidade universal; o mais monstruoso ataque, portanto, á moral e á razão! . . . Um projecto que constitue a mais monstruosa ingratitude para com os nossos antepassados da raça preta, a raça affectiva por excellencia, a cujo sublime altruismo, mesmo os que phantasticamente se acreditam mais brancos devem os carinhosos desvelos, essa educação espontanea e primitiva, a mais decisiva de todas que o epitheto de Mãe-Preta caracterizará para sempre! . . .

As mesmas reflexões se oppõem a que se desconheça a fraternidade universal para com a raça amarella, como em relação a quaesquer povos supportos da raça branca. Foi isso que ficou patente em uma das primeiras intervenções da Igreja Positivista do Brasil, quando denunciámos ao Governo da China os sinistros projectos dos escravocratas, que tentaram uma emigração chinesa, no tempo do Imperio.

Paraphraseando a exclamação de Danton, só carecemos de Amor, mais Amor, e sempre Amor! para superar actualmente todas as difficuldades é todas as angustias do nosso tormentoso presente.

Dominados pela fraternidade universal, isto é, como republicanos, é nosso dever de lealdade não seduzir povo algum, seja de que raça for, a deixar a região da Terra em que se achar, afim de vir para o Brasil. Não temos, pois, que promover ou facilitar colonização ou emigração de especie alguma. Pelo contrario: devemos expôr com fraternal sinceridade a difficil situação politica e moral do povo brasileiro, a todos os povos, afim de evitar as explorações industrialistas a que a fatal anarchia moderna — sempre crescente desde os fins do decimo terceiro seculo, — expõe o proletariado, por toda parte.

Porém, cumpre-nos acolher fraternalmente, cordialmente, quem procurar, no Brasil um asylo que pensou não poder encontrar na terra de suas mães. Só não devemos accuitar os réos de crimes communs.

Quanto aos povos orientaes, especialmente os chinezes e japonezes, só temos o dever de expôr-lhes fraternalmente, com a mais escrupolosa lealdade, as differenças entre o estado da sua civilização e a situação de anarchia religiosa em que se acham os povos occidentaes, e, portanto, em que se acha o povo brasileiro, afim de patentear-lhes os perigos a que se expõe, deixando o seu paiz. Entre esses perigos, cumpre mencionar a possibilidade de contribuirem, na melhor boa fé, para agravar a sua sorte, concorrendo para os desvarios dos occidentaes. Dados esses esclarecimentos aos governos e aos povos, só nos resta receber fraternalmente os que vierem por sua livre vontade buscar no Brasil a satisfação de suas aspirações pessoais, domesticas, civicas ou religiosas. Sou homem, e nada humano existe que repete alheio a mim, coforme proclamou a sociabilidade romana; eis o principio que o regimen republicano moderno se propõe a realizar, graças á supremacia da fraternidade universal, inspirando a intelligencia e impulsionando a actividade. Isso é só isso está realmente ao nosso alcance, em meio da fatal anarchia em que se debate o occidente desde os fins do decimo terceiro seculo, conforme o proclamou Dante:

. . . não ha na terra que governe

Eis por que se extravia a familia humana

(Paraizo, Canto XXVII.)

Ora, essa anarchia religiosa, ista é, moral e politica, resultando da ausencia da accitação de uma doutrina universal, não pôde ser superada sinão pela livre concorrência de todas as doutrinas, mediante o escrupuloso respeito á liberdade humana, segundo os impulsos de uma sincera fraternidade universal. Esse sentido excluiu, desde logo, todo o recurso á violencia, quer entre os individuos, quer entre as familias, entre as classes, entre as patrias, entre os povos, entre as raças. A tudo e a todos domina a qualidade de pertencer-se á Humanidade, á qual se acham subordinadas fatalmente as patrias, e as familias, como individuos. O homem se agita, e a Humanidade o conduz; eis a lei suprema que resulta de serem os vivos sempre, e cada vez mais governados necessariamente pelos mortos, por isso mesmo que não ha, na vida, irrevogavel sinão a morte.

(Continúa)